

「文化財の果たす役割」

昨年4月から12月までこのシリーズを連載し、現在取り組んでいる文化財の調査成果などをお伝えしてきました。今回は、その根本となる松前町にとっての『文化財の意義と役割』について考えてみたいと思います。

歴史と文化財の違い

「歴史」は英語で history his story (彼の話) が語源となっていて、歴史的事象を書き綴った『書物』が対象となっています。これに対し、「文化財」はそれらの歴史的事象の『証拠』を対象としており、その内には、書画骨董・芸能音楽・工芸技術・民俗習慣・建造物・埋蔵物・自然景観・文化的景観などがあります。

文化財がなぜ重要か

私たちが歴史を学ぶ時、その基礎となっている「証拠」を積み重ねることによって『歴史の真実』を知ることが出来ます。歴史書は、その書き手の都合や時勢によって、ときどき事実と違うことがあ

ります。その誤りはこれら文化財の「証拠」を照らし合わせる事によって判明し、歴史書の誤り」を正しています。当然、文化財の正確な調査研究がその前提となります。

松前町を振り返ってみましょう。平成9年までに刊行された『松前町史』は、松前藩政史を知る上で、全道あるいは全国に誇れる「歴史史料」です。しかし、残念ながらその基礎となる個々の文化財の調査・研究・公開が進んでいないのが現状です。また、現在、消滅しつつある文化財があるのも事実です。

基礎となる個々の文化財は何か

町史編纂の際に町内の文化財を調査していますが、それが部分的に町史に記されているものの、その調査内容の

全容は、公表されなまま町史資料室に残されています。また、最近購入した松前家伝来の『銅雀台瓦硯』についても、専門機関による客観的な調査研究が必要であることは云々までもありません。このように、一般に知られていないがもキチンとした調査がなされていない有形・無形の文化財が町内には数多くあります。



銅雀台瓦硯

消滅しつつある文化財は何か

現在、最も危惧されているのがいわゆる無形民俗文化財と呼ばれるものです。これは、松前神楽を代表とする伝統的民俗芸能などで、後継者不足が深刻な問題です。ビデオ等による記録保存は行なっていますが、やはり地域の芸能は地域の中の伝統として

受け継がれてこそ意義があるものと思われれます。また、現代社会の中でどんどん失われてゆく、家庭や地域に古くから伝わる年中行事や習慣についても、記録として保存して行かなければならないと考えています。



松前神楽

そのために何をすべきか

今年度、弘前大学を中心とした研究グループが行なった町内の江戸時代の墓標調査を広報10月号でお伝えしたところですが、その最大の成果は、これまで「アイヌの墓」と知られていた光善寺にある石碑が、実はロシアの侵入をいち早く松前藩に知らせたカラフトアイヌの人々の「顕彰碑」(功績をたたえた石碑)であることが明らかになりました。また、松前城資料館で収蔵し

それが松前町にとって何になるのか

現在まで、先人達が培ってきた文化や風土が文化財として数多く残されており、このことが松前町を「歴史のまち」と云わせしめる所以だと思えます。そして、こうした文化財を今後とも保存・伝承してゆくことが「歴史のまち」としての『証』ではないでしょうか。